

## みずもとこうえん かつしかしばた 水元公園と葛飾柴又へ

交流委員会企画のバス研修旅行は9月29日（水）、天沼弁天池公園に集合し最初の目的地 水元公園へ向け9時頃出発、参加者35名。往路は参加者の自己紹介、旅程案内後、高橋レングさんの音頭で参加者になじみ深い歌をインドネシア語、英語などで合唱して最初の訪問地に到着。公園は江戸川の小合溜（こあいだめ）にそって造られた都内随一の水郷の景観を有す。今回は、生きた化石といわれるメタセコイアの森、ハンノキなど水辺に強い



樹木を鑑賞しながらの散歩で約1時間半楽しんだ。次に葛飾柴又へ。当地では昭和初期に建築された日本庭園と伝統的な書院造、洋風建築の調和が美しい山本亭で昼食をとってくつろいだ。昼食後、

「寅さん」の記念館を見学、続いて中国の道教に起源をもつ「庚申」で知られた柴又帝釈天を参観、集合写真撮影、同寺の帝釈堂外部の法華経10法話の彫刻、大客殿など鑑賞。復路は3時15分柴又発、車中でビンゴゲーム、次いで再登場の「歌」を元気よく合唱、あたかもライジングアジアを思わせるエネルギーを発散しながら出発地に到着。

交流委員 平尾重博



山本亭での昼食

## ふなばし市民大学校での広報活動

11月11日（木）午後2時から3時まで、ふなばし市民大学校ボランティア学科（学生27名）において、「国際交流協会の働き」と題し、講義が行われました。

田村会長から協会の現在の活動や今後の事業について説明があり、その後講師を務める中谷鴻史（広報副委員長）から協会の組織や各委員会の活動など設立から現在までの流れをパワーポイントを使って詳しく説明しました。限られた時間の中、学生からの質問もあり、協会に関心のある方々の今後の参加を期待したいと思います。

広報委員 塚原



## 船橋市立小・中学校教員のための夏季短期英語研修報告

今年度初めて小・中学校の英語を担当する先生を対象に、姉妹都市アメリカ・ハイワードにあるカリフォルニア州立大学イーストベイ校<sup>※</sup>において10日間の語学研修を実施しました。

今年は、小学校から2名、中学校から4名の先生が参加され充実した内容の研修となりました。

(※5、6ページに関連記事)

### 大澤 京子 先生（宮本中学校）

ハイワードは静かできれいな街でした。大学は設備が充実しており、学習も寮生活も快適でした。英語教授法の講義は難しかったのですが、とても勉強になりました。9月からの自分の授業に生かし、より楽しい授業を行っていきたくと考えています。教員向けの教材店に案内して頂き、授業で使えるサイコロやポスターを手に入れることができ助かりました。

週末にはゴールデンゲートブリッジを自転車で走破したり、国立公園へのバス旅行を楽しみました。最後の金曜日にはMLBのナイターも観戦しました。

大変充実した2週間で、久しぶりの大学生活を楽しむことができました。

### 茂 悦子 先生（七林中学校）

現地姉妹都市委員会のツルモト夫妻との文交会が良かった。食べることに夢中になってしまいました。大学の研修はとても充実していた。具体的なデモンストレーションがあり刺激の多い研修で、9月からの授業に使えるアイデアをたくさんもらった。週末の旅行も様々な方に支えられて楽しむことができた。

### 滝口 圭太 先生（三田中学校）

米国の学校生活を見ることができ、学校で使える道具を購入することができた。刺激をいっぱい受けてきて、9月からの授業を考えるとわくわくしている。今回見てきた現地の文化や学校生活の中から、使えるアイデアをアレンジして、良い教育に結びつけることをすぐにも考えたい。週末に行った旅行も有意義だった。

### 中澤 拓実 先生（旭中学校）

米国入国の荷物検査で手間取り、ALPの先生方を大分待たせてしまった。日頃の学校生活では英語を使ったり、生かすことがあまり出来ていない。今回はスキルを使えたと思う。私はスピーキングが好きで、もっとスキルをアップしながらビデオを使って子供たちに教えることもしたい。週末に行ったヨセミテ公園では昔のサポートのおかげで楽しむことができた。食事、景色とも良かった。姉妹都市であるハイワード市で船橋市が認知されていることを実感し、うれしかった。

### 熊木 千佳子 先生（法典西小学校）

とても貴重な経験をさせていただきました。大学の先生による英語での講義は、内容が専門的でしたが、とても勉強になりました。実際に英語を使うことにより、語学力も多少は向上したと思います。寮や食堂などの施設もよかったです。来年以降もこの研修は企画されるということですので、小学校の先生もどんどん参加するといっています。

### 辻 美和子 先生（葛飾小学校）

英語がわからず、初日のテストではヘッドセットをつけてパソコンに向かって会話するのが大変だった。先方の先生もゆっくりと話したり、板書を併用するなど配慮していただいた。授業も大変！部屋に帰ると辞書と首引き。「言葉のわからない子どもが、わからない時どう感じるか？これが今回の自分の大きなテーマである。答えをすぐに教えてくれる。—これは悲しいことにもつながることが分かった。答えを導き出すために自分の頭で整理している途中だと余計混乱する原因になるのである。」今回の研修では、子どもの気持ちなどいろいろ気づく点も多かった。時間がなくてご飯も食べずに次の授業に出ることもあった。苦勞もあったが得るものはそれ以上に多かった。



## 避難所宿泊訓練と災害時外国人サポーター研修



た。研修は今年で4回目となる。

大地震などによる災害時にどうすればよいのかを訓練するため日本語教室の学習者や在住外国人に学校の体育館で避難所宿泊訓練の参加を呼びかけ、およそ40名の外国人参加を得た。

外国人を対象にしたプログラムでは、「災害時の日本語」を取り入れた防災講座や地元住民に交じって市総合訓練へ参加したほか、在住外国人の応急手当普及員が中央消防署員の応援も得て中国語、英語、韓国語、やさしい日本語を使って「心肺蘇生法とAEDの取り扱い方」の普及に努めた。どの講座にも参加者は興味津々、質問が出るくらい積極的かつ熱心に参加し、いかに自分たちにとって大切なことであるかを実感し

8月28日(土)～29日(日)の1泊2日、船橋市国際交流協会主催で避難所訓練と災害時外国人サポーター研修が湊町小学校で同時開催された。

ていると感じられた。

外国人普及員は昨年(H21)10月に筆記・実技試験に合格し全国で初めて誕生したメンバーであり、既にも何回か母語を生かした普及活動を行っているが、今後も大いなる活躍を期待したいものと思う。

一方、サポーター研修では災害多言語支援センター設置、避難所巡回などの訓練に加え災害時外国人支援ハンドブック説明、外国語講座など盛りだくさんの内容であった。

なお、2日間にわたって避難所での外国人誘導、受付、物資配給準備、オリエンテーションでの通訳、外国人応急手当普及員によるCPR・AED訓練、食事の準備と配給、避難者の心を癒すための「お楽しみイベント」など、交流委員会の多大な力が注がれていたことと、今年は、ボーイスカウトの協力によるイベントも加わったことを付記したい。

最後に、この暑さの中で何のトラブルもなく無事終了したことはなによりであったと、参加者の一人としてほっとしたことであった。

交流委員 西口晶代

## 外国人の働いている職場訪問 (第5回)

### 佃の匠 やまと

船橋の名品として市民に愛されている「佃の匠 やまと」が今回の取材先です。会社は高瀬町の工業団地があり、工場に入るとプーンと佃煮のいい香りが漂ってくる。



食品工場での取材だけにまず身支度を整える。靴を履き替え、白衣を着て、着帽そして消毒と充分に身なりを整えて、社長の滝口さんに案内されて工場に入る。

今の工場では中国から3人の研修生と3人の実習生が働いており、今日取材に応じてくださったのは日本に来て1年足らずの鄭云さんと3年は過ぎましたという董曉星さんです。二人とも山東省のご出身とのことでした。

滝口さんに、研修生と実習生のとのちがいを尋ねたところ、研修生は1年間の研修を終えたところで「テスト」を受け、それを受かると、あと2年間の実習生として日本の生活が許可される制度とのことでした。(現在、研修生は「技能実習生」に移行中)

滝口さんは単なる研修生ではなく、仲間の一員という気持ちで受け入れているそうです。それが研修生にも伝わっているようで、いきいきと作業をされていました。あさりの真空パック詰め、しじみの袋詰めと器用に作業を

進める。見ているだけでもその真剣さが伝わってきます。

住まいは会社の寮に住み、この工場に通勤する。今は慣れたので、自転車で15分くらいかけて出勤する。そのせいで、「天気予報」は欠かさず見るそうで、そこで日本語も少しおぼえますね、と苦笑い。

二人に日本に来て楽しかったことはと問うと声を合わせて、「夏まつりです」と答えが返ってくる。夏祭りで見えた「バカ面踊り」の印象が強かったようです。

日本の感想を聞くと「歩き方が反対のこと」という。そうか、中国は左側通行なので反対になるのかと納得。また、日本の「ゴミの分別収集」や「街の路がきれいなこと」にも驚いた様子でした。

「休日はビビットストアで買い物をして、寮でお国料理を作る事が楽しみ」のとのことでしたが、二人とも日本の刺身にも挑戦済みで、一番おいしい和食で好物のようでした。



広報委員 田嶋

## ALT (Assistant Language Teacher)の紹介(第6回) マムーン ハレッド アラビラ(Mamoon Haled Alabira)先生



今回は、ガーナ出身のマムーン ハレッド アラビラ先生にお話をうかがいました。

マムーン先生は、2004年に日本の女性と結婚されたのを機に来日されました。

それまでに、ガーナ、ナイジェリア、リベリアの中学と高校で、英語とフランス語を教えておられました。現在、船橋市、習志野市、足立区、葛飾区の小中高校で英語とフランス語を教えています。

マムーン先生によると、ガーナで大学に入るには、西アフリカ5か国(ガーナ、ナイジェリア、シエラレオネ、ガンビア)の統一試験 West African Examination Councilの大学受験テストに合格しなければなりません。この得点によって、これら5か国内の大学に入学することができます。

ガーナの高校のほとんどは、寄宿学校になっていて生活全般から勉強まで、学校が面倒をみます。子

どもたちは、家族のように仲が良く一緒に成長します。

海神南小学校のマムーン先生の授業を見学しました。right, left, go, straight, turnの単語の導入を目的とした授業でした。マムーン先生がまず動作をした後、子どもたちが声を出し動作をしながら学んでゲームをしました。子どもの一人が、目隠しをされてヘルプの子どもがGo straight. Turn right. Turn left. Stop. Hit it. と伝えてボールをたたきます。うまく棒があたれば、1点もえます。英語でスイカ割りゲームです。体も一緒に使うことにより、しっかりと言葉を習得できているようでした。マムーン先生の熱心に子どもたちに英語で話しかける様子が子どもたちに伝わり、良く心が通じているようでした。

こうして学んだ、go right left stopなどの表現は、マムーン先生の笑顔とともに、きっといつまでも忘れないことでしょう。 広報委員 福井

## 国際理解公開セミナー

海外に依存する日本のエネルギー・鉱物資源



講師 小山恭一 氏

協会員、日本語教室・外国人相談窓口所属

11月8日(月)中央公民館でセミナーが開催されました。専門知識をお持ちの協会員の中から講師を迎えようという趣旨のもとに、今回は小山氏が選ばれました。

豊富な統計をスクリーンに示しながらの講演は予定時間をオーバーするほどの熱の入ったもので、話しの途中で何度も質問が入るなど、参加者の皆さんも今後の大切な問題に熱心に聞き入っていました。

内容は次のような事柄です。

1. レアアース問題
2. 食糧・エネルギー
3. 金属鉱物
4. 国際価格
5. 新たな資源源
6. 今後の課題



レアアースに関しては、中国の突出した生産量を改めて認識させられました。

これからの課題として、備蓄、供給源の多角化、新規鉱山開発と参入、海水や海底資源の開発、代替素材の開発、再生可能エネルギー(技術)開発、リサイクル、良好な外交関係を挙げられました。 広報委員 中川

## カリフォルニア州立大学イーストベイ校留学生が市長表敬訪問

かねてよりカリフォルニア州立大学イーストベイ校へ1年間の留学が決まっていた清浦千絵さんが、8月18日に離任市長に挨拶のため表敬訪問をしました。清浦さんは、国際交流協会の派遣事業に応募し、書類選考を経て2月に英語力その他の面接を受けて見事に留学が決まりました。イーストベイ校は、姉妹都市ヘイワード市の丘陵地に立つ、市のシンボリックな大学です。

清浦さんは、明るく聡明な女性で、国際政治学の勉強をし、留学先の仲間にはマンガなどのポップカルチャーの発信、コスプレの紹介もしたいとのこと。

彼女は留学20期生で派遣46人目にあたり、大学を休学して行かれます。市長から「頑張ってください」と激励を受けていました。 姉妹都市委員 梁瀬厚子

## 外国人相談窓口 最近の相談から

現在、船橋市には外国人は約1万2千人います。相談内容は、よろず相談ですから多岐にわたります。相談というほどでないものから、家庭内暴力のような深刻なものまで、私達の活動は大きく分けて次の4つになります。

◆通訳 interpreter ◆相談 consultant  
◆助言 adviser ◆聞き役 listener

どんな相談なのか、その一部を紹介します。

- 1、子供を保育園へ入園させたい。  
→保育園へ同行し、窓口の説明や書類を訳し、手続きのお手伝いをします。
- 2、電話料金を払ったが、督促状がきたのでまた払ってしまった。  
→解決後の方は感謝状を書いて嬉しそうに帰られた。

3、日本人の夫の暴力で骨折したことについて、病院から電話による相談。その後夫から逃れたいと言うので、人権擁護協会と連絡をとり、解決しました。

4、中近東から来た男性「日本人の妻が名古屋の実家の方へ引越すが、自分は船橋に残されるのではないかととても不安だ。宗教は違っても、太陽崇拝は同じなのに」と1時間ほど話を聞きました。部屋を出る時、安堵の表情で帰って行きました。

相談者は入室する時緊張して入ってきても、帰りはちょっと笑顔になって、感謝の言葉で帰って行かれる。このボランティア活動に参加して良かったと思っています。

相談窓口委員 村野圭吾

## 近隣地区の国際交流協会 情報交換会開催

千葉県西部地区の国際交流協会の情報交換会が船橋市国際交流協会（以下FIRA）の発案で10月15日（金）開催されました。

近隣の7協会（船橋市、市川市、佐倉市、習志野市、八千代市、鎌ヶ谷市、浦安市、＜千葉市国際交流協会は他の行事で欠席＞）より35名が参加し、熱心に説明・討議しました。

各協会の活動内容が紹介され、FIRAの状況は田村会長ほか説明し、姉妹・友好都市との交流、日本語教室の活動、多文化共生、外国人相談窓口の活動、災害時の外国人支援と外国人による救急救命指導員の育成、市民への国際交流普及のための広報活動概要などが紹介されました。

各参加協会より、運営する環境が厳しくなり苦勞されていることや、特色ある活動内容が紹介されました。

興味ある活動としては、

- ①青年部を組

織して若者の参加者の増加をはかる

- ②受益者負担事業として国際文化大学を運営
- ③日本語教室によるスピーチコンテストなどの実施
- ④外国語講座の開催
- ⑤家庭で英語を使おう運動
- ⑥各種のパーティやバスツアーなどの触れ合い交流が紹介されました。

この情報交換会は数年前より準備されていたもので、今回やっと開催に至ったものです。情報交換会の継続実施を全員で確認し、幹事団体は持ち回りとなりました（次回は市川市国際交流協会）。

議事終了後、懇親会を行い日頃の苦勞話や明るい夢話に時間を忘れて盛り上がり、会を終えました。



広報委員 渡辺

## 外国人のための「日本の家庭料理」教室



11月8日(月)  
薬台台公民館において今年度2回目の「外国人のための日本の家庭料理教室」が開かれました。

今回は4つの日本語教室から学習者7名、講師として姉妹都市委員会から福島真知世さん(二葉栄養専門学校講師)、姉妹都市委員会と日本語教室委員会から11名のベテラン主婦がお手伝いとして参加しました。前回顔見知りになった参加者もあり、和やかに始まりました。

今回のメインディッシュは鮭の南蛮漬けですが、真の主役はこれから旬を迎える大根です。大根と鶏ささみのサラダ、大根皮のきんぴら、菜飯に味噌汁、と葉っぱの先からしっぽまで丸ごと一本いただけるメニューでした。一時は皆が大根の干



切りの真っ白い山と格闘しているような光景でしたが、日本の家庭料理らしい、ヘルシーで「もったいない精神」に満ちた食卓ができあがりました。普段から和食をよく作るという人も、夫婦で同国人なので和食はほとんど作らないという人も和食は大好き。皆が満足の豪華ランチとなりました。

次回は「和菓子を作ってみよう」というリクエストもありましたが、冬の時期にふさわしい献立で開催される予定です。心も胃袋も満たされる料理教室にたくさんの参加をお待ちしています。

日本語教室委員 安彦敦子



### お知らせ

#### ○カリフォルニア州立大学への留学生を募集○

姉妹都市であるアメリカ・ヘイワード市のカリフォルニア州立大学イーストベイ校への留学生(1年間)を募集します。

授業料の約7割免除、学生寮への優先入寮、現地姉妹都市委員会から生活ガイドやアドバイスが受けられます。

期 間：23年9月中旬～24年6月中旬

対 象：以下の全てに該当する人

- ①日本国籍を有し、市内に継続して1年以上住んでいる。  
(親元を離れて市外の大学に通う人も含む)
- ②平成3年4月1日以前に生まれ、高校を卒業している。
- ③TOEFL525点(iBT71点)以上を取得している。
- ④来年度に実施するヘイワード市との姉妹都市提携25周年事業に協力できる。

募集人数：3名 受入学部：芸術、文学、社会科学、経済、教育、科学

選考方法：書類審査後、2月20日(日)に面接(英語・日本語)で2次試験を実施

申込み：2月4日(金)(必着)までに、申込書を市国際交流協会(〒273-8501※住所不要 ☎436-2083)へ  
※申込書は同協会事務局(国際交流室内)で配布。また、協会HPでダウンロード可。

### あとがき

辛夷、桜、藤そして紅葉と四季を彩る森の梢から朝日が昇り、時を経て健康の為、愛犬の為、又白鷺や翡翠等野鳥観察の為、二重川沿いには、人々が行き交う穏やかな光景が日々繰り広げられている。この環境は花木を植えて、草を刈るなど地道なボランティア活動に支えられており、複雑なストレスに晒されている今、貴重な癒しの場として存在感を示している。私はこの里山の恵みに感謝し、満喫している一人です。(KI)